

注目されるアジアハイウェイ

シンポジウムに15カ国参加

渋谷・国連大学

国際連合 ESCAP (アジア太平洋経済社会委員会) と アジアハイウェイ・シンポジウム実行委員会の主催による 「アジアハイウェイシンポジウム」が五日から七日まで、 東京・渋谷の国連大学で開かれた。

シンポジウムには中国、インド、タイ、モンゴルなど十五カ国が参加。一昨年十一月に、二十数年ぶりに新アジアハイウェイ・ネットワークが確定し、同国が開催された。

最初に、グルグリーノ・デリーザ国連大学学長と佐藤清JI CIA理事の二人により基調講演が行われた。その中でグルグリーノ氏は、アジアは広大な大陸であり、アジアの人々を平和的に交流させ

シンポジウムには中国、イン

ド、タイ、モンゴルなど十五カ

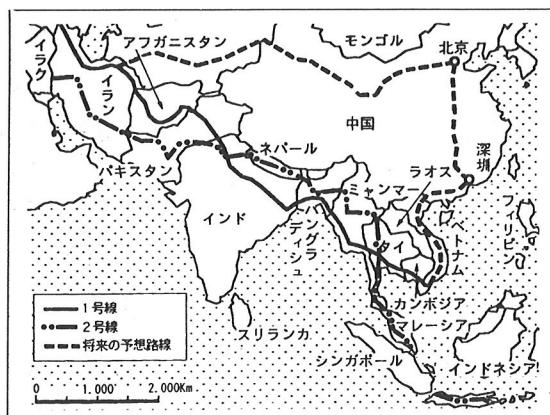
国が参加。一昨年十一月に、二

十数年ぶりに新アジアハイウェイ・ネットワークが確定し、同

国が参加。一昨年十一月に、二

十数年ぶりに新アジアハイウェイ

ド、タイ、モンゴルなど十五カ



ESCAP、タイ、インドから
の参加者、日本からは森地茂東
京大学教授、篠塚建次郎氏(ラ
リードライバー)の二人が参加
を進めるにあたっては各國の協
力のもと諸々の問題解決が必要
であることが強調された。

最初に、グルグリーノ・デリ
ー・佐藤清JI CIA理事の二人
による基調講演が行われた。
その後、パネリストには、杏林大
学教授、パネリストには、

シンポジウムでは専門の各セシ
ョンに分かれ、第一セッション
では「アジアハイウェイの整備の
意義について」発表。国内道路と
の整備優先順位、新しい路線の指
定、設計基準の運用について活発な
意見交換が行われた。続く第二セッ
ション「アジアハイウェイ整備の課題」
では、ハイウェイの整備の構築

における課題、②沿道施設の整備
の課題、③データベースの構築
の課題、④道路交通の安全性の向上
の課題、⑤国境通過の促進の課題、
⑥資金調達問題の解決の課題が討議
された。

翌六日からは専門の各セシ
ョンに分かれ、第一セッション
では「アジアハイウェイの整備の
意義について」発表。国内道路と
の整備優先順位、新しい路線の指
定、設計基準の運用について活発な
意見交換が行われた。続く第二セッ
ション「アジアハイウェイ整備の課題」
では、ハイウェイの整備の構築

における課題、②沿道施設の整備
の課題、③データベースの構築
の課題、④道路交通の安全性の向上
の課題、⑤国境通過の促進の課題、
⑥資金調達問題の解決の課題が討議
された。

最終日の七日には、第三セッ
ション「アジアハイウェイの整
備及び利用促進のための方策」
が行われ、ルートの標識の設置、
ルートマップの発行などに向
け、参加国がより緊密な情報交
換・協力をを行い、積極的に取り
組むことで基本合意した。

なお、シンポジウムでは次の
ような提言がなされた。

一、アジアハイウェイ整備の必
要性——最近のアジアにおける
経済、貿易、観光の成長によ
り、効率的・効率的な陸上交通
路への需要が増大しており、ア
ジアハイウェイの整備が必要で
ある。

二、アジアハイウェイ整備の
課題

①設計基準に沿った整備
②沿道施設の整備
③データベースの構築
④道路交通の安全性の向上
⑤国境通過の促進
⑥資金調達問題の解決